

205



木の宿

泊まり方・のこ遣し方

今こそ泊まってほしい

雲仙観光ホテル 撮影：稲葉なおと

2020年1月22日(水) 18:00～19:30
sapporo55 インナーガーデン・紀伊國屋書店札幌本店前

建築史にも名を残すような、巨匠建築家や名棟梁が設計した宿があります。ところがいざ泊まろうとして調べてみると、残っているのは外観だけであったり、丸ごと解体されてしまっているケースが少なくありません。木造や、内外装に木をふんだんに使った「木の宿」であると、この危機的状況は更に深刻な印象を受けます。一方で開業後何十年もの年月を重ね、何度も工事の手が入りながら、竣工当時のままの意匠を数多く残す「木の宿」もあります。しかも木部や金物の細部がつつつと輝いていて、見るだけでなく、つい触れたくなったりするのです。建築の将来に生まれるこの違いは、どこに分かれ目のポイントがあったのでしょうか——。今こそ泊まってほしい「木の宿」の見方、泊まり方とともにお話します。



© Seizo Terasaki

稲葉なおと 作家・北海道大学非常勤講師

東京工業大学建築学科卒。長編旅行記『遠い宮殿』でJTB 紀行文学大賞奨励賞受賞。以後、建築家の視点で選んだ名建築宿に500軒以上泊まり歩きつつ、旅行記、長編小説、児童文学、写真集を次々と刊行。約30冊の著書と、一般メディアでの業績が建築文化を一般に広めることに貢献したと評価され、2019年日本建築学会文化賞受賞。最新刊の長編小説『ホシノカケラ』が発売と同時に重版。ネット売上ランキング1位になり、新聞、テレビ等でも話題に。

参加無料(定員70名)

会場案内：〒060-0005 北海道札幌市中央区北5条西5丁目7

問い合わせ：011-706-6248 (北海道大学 建築デザイン学研究室)

主催：北海道大学工学研究院 建築都市空間デザイン部門

共催：株式会社 竹中工務店 北海道支店「道産木のある未来がみたくら」委員会

後援：株式会社 講談社、一般社団法人 日本建築学会北海道支部

公益社団法人 日本建築家協会北海道支部、紀伊國屋書店札幌本店

*夜間に会場が冷え込みますので、暖かい服装でお越し下さい。